

# じん だ い

第76号

2024.7.25 (木)

発行：医療法人社団 欣助会 吉祥寺病院

調布市深大寺北町4-17-1 ☎042-482-9151  
URL [www.kichijoji-hospital.com](http://www.kichijoji-hospital.com)



## 基本理念

患者様やご家族の側に立った医療  
患者様の社会復帰を目指す医療  
全職員相互の力を発揮できる医療



夏の沖縄

## Contents

感謝状をいただくまで .....	2
新医師のご紹介 .....	3
【リレー連載】 部署紹介「優しさ溢れる OT」 .....	5
【連載】 どうしよう倶楽部 .....	6
私の趣味紹介 .....	7
【連載】 本能寺からお玉ヶ池へ ～その⑳～ .....	8
新入職員のご紹介 / 当院のおすすめメニュー .....	11
外来担当表 / 当院略図 / 編集後記 .....	12

# 感謝状をいただくまで

医療相談室 精神保健福祉士 関谷 薫

私は入院依頼の窓口業務をしています。コロナ渦でのストレスやコロナ後においては円安によるインバウンドの影響でしょうか、ここ3～4年は外国籍の方の依頼は増加傾向です。

当院では、これまで外国籍の方の入院は稀でした。外国語対応の体制が整っていないことが主な理由です。外国の方と聞くと、開口一番「日本語は話せますか？」と質問していました。

## 初めての依頼

令和5年2月、東京出入国在留管理局、当院で“入管”とお呼びしている施設から初めてご依頼をいただきました。当初は「精神科治療の必要なし」「薬の内服のみで入院の必要なし」との医師の判断が続きました。

そのなか、「直接説明したい」と入管から積極的なアプローチを受けました。「国公立病院では満床が多く、入院先を広げたい」「帰国を目指し、飛行機に搭乗できる精神状態になることを目標にできないか」とのお話でした。

## 院長の考えを受けて

令和5年4月、当院の院長が東京都精神病院協会の理事会で、協会として受け入れていくことを提案し、入管からのご説明もありました。理事の方々からさまざまな質問があったとのこと。結果として、当院が窓口となり体制をつくっていくことになりました。言語、身体科治療、入院費、法律的なこと……整えることは山積みで、入管と何度も協議を重ねました。

そのなか、院長が考えを発信しました。

「自分たちの成長のために入院を受け入れる」  
「実行しながら体制を作り上げる」  
これを受け、令和5年11月初めての入院患者様を受け入れました。

## 初めての入院を受け入れて

当然のことながら現場では戸惑うことが多かったのですが、病棟のスタッフから「ご本人が生活する環境（施設）を知らなければケアの方向性が見えない」と施設見学の希望ができました。私たちは病気をよくすることはもちろん、退院後に病気と上手く付き合い、より良く生活していただくことを目指しているからです。

快く見学を受け入れていただき、院長をはじめ十数名が見学を行っており、今後も予定しています。

## 感謝状授与

これまでに3名の入院患者様を受け入れました。皆さん無事に帰国されたと伺っています。体制整備の中、手探りながら懸命に対応した当院のスタッフに対して、入管の宮尾局長様より感謝を表したいと感謝状をいただくことになりました。以上が感謝状をいただくまでとなります。

変化の速い現在において情勢を見極め、今後も当院ができることを提供できるよう取り組んでいきたいと思えます。



(左)  
吉祥寺病院  
理事長・院長  
塚本

(右)  
東京出入国在留管理局  
入国警備官 警備長  
江崎様



# 新医師のご紹介



## 『ご縁』

医局 秋山 洋美

今年度より、東京女子医科大学病院から出向としてこちらで勤務させていただいております。秋山と申します。ルールやカルテの違いもあり右も左も分からない中、皆様にとっても親切にさせていただき、日々感謝に尽きません。

さて、このあたりで本題に入るべきとは思いますが、内容は完全に自由とのお話であり逆に何を書いたものかと頭を悩ませているところです。ですが自分らしさをとのことでしたので、折角であれば私の趣味についてお話できればと思います。

結論から申し上げますと、私は比較的多趣味な方なのではないかと思えます。自身の体力と鑑みると、驚くほど色々な世界に手を出しているのでは、と自分でも時折驚くほどです。中でも一番初めに会った趣味は、フィギュアスケートでした。

私は幼少よりそれほど身体が丈夫ではなく、アウトドアスポーツとは縁遠い子供でした。幼少期はもっぱら絵を描いている子供だったそうです。ですが五輪中継でスケートを見て、これをやりたい！とはしゃいだらしく、そこから習い事としてのスケート人生が始まりました。

スケートは怪我也多く過酷かつ危険なイメージがあるかもしれませんが、実は体力がない人間にとっても向いています。なぜなら演技はたったの5分程度。おまけに常に走り続ける必要もありません。「スケートは止まっても滑れるし、運動神経などが無くてもできる」と言われたことを子供心によく覚えています。

そうしてスケートを始めると、色々な世代や出身の知り合い、特に大人の知り合いができました。漫画家であったり、教師であったり、キャビンアテンダントさんや音楽家さん、出版社の編集さんもいました。そういった、普通で

は決して出会わないであろう方々から色々なことを教わり、私は他にもさまざまなものに手を出し始めました。それからは遊びとして小説を書いてみたり、絵をかいてみたり。元々ピアノをやっていたこともあり作曲について簡単に教えていただき、音楽の打ち込みをしてみたりもしました。大きくなりより活動の幅が広がってからは、自分達で動画を作ってみたり、ゲームを作ってみたりとさらにできることが広がっていきました。その過程でさらにネット上の知り合いも増えていき、仲のいい方であればその後実際にお会いして遊ぶ仲になった方も沢山います。こういった形で得たご縁の最も特徴的なところは、やはり年齢も住む場所もバラバラであることだと思います。私はそれなりに色々な人とお会いするのですが、いつの時代も下は学生、上は定年退職をされたような方まで、多種多様な方と遊んでいたできてきました。

そんな経験をしてからこの業界に入り、とても感謝していることがあります。それは、意外とさまざまな患者さんと趣味の話をできることです。年が若い患者さんであれば、年下の友人から教えてもらった流行やらの話が。ご高齢の方であれば年長者の方から聞いたうんちく話が非常に役立つことがあり、いつも有難いなと思いつながり働かせていただいております。

吉祥寺病院の皆様ともぜひお話させていただきたい！という気持ちは非常に強くあるのですが、生憎と私の方の時間が中々とれず悔しい限りです。しかし、出向期間が終わる前までにはぜひ交流させていただきたく思っていますので、ご縁があればぜひお願いいたします。

最後になりますが、ここまでお目通しいただきありがとうございます。1年間という短い期間ではありますが、今後とも宜しくお願いいたします。



## 人生の「あいうえお」

精神科 永尾 龍太

令和6年4月より入職いたしました、精神科1年次専攻医の永尾龍太と申します。出身は東京都町田市で、世田谷の高校を卒業後に福島県立医科大学に進学、福島県の病院で初期研修を修了し4月に東京に戻ってまいりました。私自身、医学生時代から患者さんの病態に社会的背景が関わる疾患に興味があり、精神科と総合診療科（特に家庭医療）を考えていました。家族や友人などに精神疾患患者がいたことなどから自然と精神科に足が向かっていきまして、これが精神科を志した理由になります。

これまでの人生を振り返ると、自分は「運」と「縁」に恵まれてきたなと感じます。「運」に関しては私とドラムの出会いがあります。中3の音楽の授業でたまたま担当したドラムに引き込まれ、大学時代は学内の部室にドラムがあったので授業後は部室でドラムを叩くことに明け暮れました。下手だと言われて落ち込むことはあってもドラムを叩くことだけは楽しくて辞められず、今は学生時代以上にのめり込んでバンド活動も精力的に続けております。

バンドは大学の後輩経由で誘われたもので私以外のメンバーは福島在住ですが、バンドとして東京や海外への進出を目論んでおります。「縁」という意味では、中学で一生の親友に巡り合いました。中学時代に同じクラスでたまたま隣の席になり、お互い英語が得意というのもあって気が合い、切磋琢磨してきました。

大学入学後は、車好きという共通の趣味もでき（彼は首都高をナビ無しで運転できるくらいの無類のドライブ好きです）、私が東京に帰省した時にドライブによく行きました。そんな彼も結婚し、つい先日結婚披露宴に招待されたのですが、厳かな雰囲気の中タキシードに身を包んだ彼はひとときわ輝いていたのが印象的で、形

を変えながら今後とも続く関係に思いを馳せる一日となりました。この2つ以外にもさまざまな「運」と「縁」のエピソードがあって書き足りないのですが今回はここまで。

ふと気づいたのですが、「う」＋「ん」＝運、「え」＋「ん」＝縁になりますね。では同じ「あ行」の残り「あ」、「い」、「お」に「ん」を足して、運と縁につなげられないでしょうか。「あん」は「案」でいかがでしょうか。「案」は、考え、計画を意味します。「いん」は因が合うかなと思います。「因」は、もと、事の起こりを意味し、「原因」などの単語にも使われます。こうなると「おん」は「恩」がピッタリでしょう。めぐみ、いつくしみの意味だそうで、私もこの機会ですべて学びました。人生は常に勉強ですね。

さて、「あ」～「お」の5つ全て出そろったのではないのでしょうか。考え（案）に基づいて行動したことで（因）めぐり合わせ（運）が生まれ、その過程で人との繋がり（縁）ができ、恵み（恩）にあずかる、また自分が恩返しをしていく、人生はその繰り返し。もちろん人生良いことばかりではありません。不運という言葉があるように、つらいことがあったり間違いを犯したこともあります。でもそこで自分の殻に閉じこもらず周りの人に頼ることで第三者の意見も得られますし、自分の中で整理も付きます。私はそこで正しい方へ導いてくれる人生の先輩、友人、家族にも恵まれたなと感じています。今後は人として精神科医として、彼らやこれから出会うことになる患者さんに貢献していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

こんにちは、作業療法科です！ 作業療法士って何？ どんなお仕事をしているの？ と思う方は多いかもしれません。医師や看護師と違い、あまり知られていないお仕事なので、そう思われるのはしょうがないです。今回は吉祥寺病院の作業療法科に務めて3年目の私が紹介したいと思います！

作業療法は英語で Occupational Therapy と言います。頭文字をとり OT（オーティー）と呼ばれています。OTは「作業活動を通じて、より健康的な生活を目指して行う、心と体のリハビリテーション」です。「作業活動」と聞くと仕事の固苦しいイメージを持つかもしれませんが、でも、作業療法では、仕事のものだけでなく、創作活動・運動・楽しむこと・休むことなど日々の生活で行うさまざまなことを作業活動と捉え、それらを用いて人の健康的な部分に働きかけ、心とからだの回復を助け、自分らしい生活を再建していくお手伝いを行います。

吉祥寺病院の作業療法の活動場は、主に各病棟内とリハビリテーションセンターのOT室があります。病棟内では、体操や音楽鑑賞、映画鑑賞、脳トレやぬりえのプリントをする時間等、さまざまな活動を楽しめるようにしています。さらに各病棟の患者様に合わせて工夫を凝らしたりもします。私は女性病棟のB3病棟を担当していますが、最近は体操の時間にみんなで振付を覚えて踊ることに挑戦しています。一世を風靡した星野源さんの「恋ダンス」の練習を3月からコツコツ重ね、今ではまるまる1曲分、一緒に踊れるようになりました♪ 踊っている時の皆さんの顔はふだんあまり見せないような楽しそうな表情で、その時間になるとB3病棟にはガッキー（ド

ラマ「逃げ恥」で共演していた新垣結衣さん）がたくさんいて、私まで楽しくなります！

OT室では、病棟内に比べ、より一人ひとりの患者様が好きな作業活動を選択できるように準備をしています。何かを作りたいという方はプラ板工作や組みひも、アイロンビーズでモチーフを作ったり、時間をかけて編み物でマフラーや帽子作りに挑戦している方もいます。また新聞を読んだり、TVやCD鑑賞をしてゆっくり過ごしたり、院庭で体を動かしたり……と患者様の希望に合わせて、色んな活動をしていただいています。そのような活動を通して、生活リズムを整え、体力を回復し、退院に向けて一緒に準備をしていきます。

ここからはOT科のスタッフについて、私の体験を交えて少し紹介します。入職した際の頃、他病棟からB3病棟へ転棟した患者様について「最近、〇〇さん元気ですか？」と元の病棟担当のスタッフが私に尋ね、担当を離れても気にかけていたり、ある患者さんが希望する活動に対して相談した際には、他のOTスタッフがみんな「こうすればできるんじゃない？」「こうすればもっとやりやすいかも」と意見を出し合って協力してくれたりしました。これは前職ではあまり経験しなかった光景で、一人ひとりの患者様を思いとことん考える優しさにあふれた対応に衝撃を受けました。他のスタッフの独自のやり方や意見には、自分では考えつかなかった新たな発見があり学ばせてもらっています。直接言うのは恥ずかしいのですが、先輩のOTスタッフが日々当たり前のこととして真摯に患者様や仕事について向き合っている姿を尊敬しています。そんな「優しさ」あふれるOT科に興味を持っていただけたら嬉しいです。今後ともよろしく願いいたします！



このコーナーでは、精神科病院がどのように進化し、社会において「頼れる存在」になるために取り組んでいるかを詳しく掘り下げていきます。偏見やネガティブなイメージを払拭し、メンタルヘルスに対する理解を深めてまいります。

## 夜の病院

医師 山室 京子

夜の病院のイメージってどんなでしょう？

……ちょっと不気味じゃないですか？

研修医の時、郊外にあるもとは結核療養所だったという病院での当直を頼まれました。

夕方到着し古い木造校舎の職員室のような医局に案内され、待っていると年配の女性医師がやってきました。見回りの手順などをざっと説明され「そう、当直室はね、昔は医局の隣だったんだけど、今は変わって遠くなっちゃってね……」きしむ戸を開け案内された旧当直室には、黒い漆塗りの表札に白く『霊安室』の表示が……。

うす暗い廊下を気合で通り抜け最速で見回りを終え鉄筋造りの建物1階の「新」当直室に戻りました。病棟は2階以上のため1階は人気なく電気もついていません。幸い当直室前がトイレでした。入ると個室のドアが一つ閉まっていて先客がいます。誰かがいた、という安堵感から便座に座った途端「はあ〜」とため息をついてしまいました。すると先にいた人が慌てて出ていく気配がします。「？」

不審に思いドアの隙間から覗くと……なんと男性の後ろ姿ではないですか！ 盗撮目的で潜んでいたのか?! 変質者か?! 正体を見極めねば！ 私も慌てて出て男性を追います。小走りしても向こうもスピードアップし距離が縮まりません。男性は一切振

り返らないまま廊下の先の部屋に駆け込んでいきました。

入口を見ると『宿直室』の表示。あれ……もしや……立ち止まった私が振り返ると、トイレの入口には『男子便所』の文字が……。

精神科病院のイメージってどんなでしょう？

入ったら二度と出られない、鉄格子、薬を無理やり飲まされる、医者も変人……などなど。

吉祥寺病院にいらしてみたら拍子抜けするかもしれません。南欧風の明るい建物です。鉄格子もありません。外来にお話だけしに来てくれる方もいらっしゃるし、入院もほとんどの方は1、2カ月で退院されています。医者も他の科の先生方と何ら変わりありません（……と思っています）。

眠れない、病気なのかわからない、そんなときでも気軽にご相談していただければと思います。意外と使える、と感じていただけるかもしれません。

イメージと実際は違うことってありますよね。

『夜の病院』におびえていたはずが、宿直の男性職員を恐怖におとし入れていたのは私だったように……。



# 私の趣味紹介



## 私と音楽について

名誉院長 原藤 卓郎

「大日本帝国に生をうける男子（青年）たる者は、心身をきたえ、学に志さず者は、特に理工系において世界に冠たるべく努力すべきである。歌、舞、音曲の如きは婦女子の業と心得よ」……とマインドコントロールされていて、小学校時代の童謡は、今でもなつかしく口ずさむ。

中学になって、音楽の時間が週1時間3ヶ月あるが、何を教わったのか全く覚えていない。

婦女子のやることだとして他の英・数・国語の内職をして過ごしたが「ベートーベンの第五」を聞いた時は感動した。こんな素晴らしい音楽があるのだと今でも思い出す……。

親戚に音楽の好きな叔父がいてレコードをかけるが、近所に聞かれないように毛布をすっぽりかむって聴いたもので、いろんな曲を耳にした。

ベートーベン・シューベルト・バッハ・モーツァルト……などの有名な音楽家の名前をその頃覚えた。昭和14～5年頃（中学3～4年生）風雲急を告げ、大東亜戦争となり、音楽どころではなくなった。

昭和20年8月終戦となり、言論の自由と共に欧米の音楽がドッと押しよせて来た。

大学に入り、音楽部に入って歌ったり楽器をいじったり、音楽論を戦わせたりした。

大学1年生の頃、失恋の悩みに沈んでいる時、シューベルトの未完成を聴いて気持ちが奮い立った。1頁の終わり頃のシンコペーションが素晴らしく、荒れた心をそとまで別の世界に導いて行くような気持ちになって救われた。

大学3年の頃、音楽好きの友人（1年下で同じ下宿にいて知り合った）と喫茶店にいった時、素晴らしい音楽が聞こえて感動してもう一度かけてもらった。

何と言う曲かは知らなかったが、友人が「チゴイネルワイゼン（サラサーテ）」ですよと教えてくれた。以後この曲は、私の守り神になった。つらい時、苦しい時は、この曲を聴くと元気が出る。（そんなことを言っていると音楽はまだ初歩だと言われますよー。とその友人から忠告された）

調布から三鷹に移って来て近くに教会があって、そこに大谷さん（女性バイオリニスト）が年に1～2度来ては、バイオリンの独奏してくれるが、このチゴイネルワイゼンを聴かないと皆帰らずアンコール!! とわめく。大谷さんもそれを事前に承知で、最後にチゴイネルワイゼンを力強く弾いてくれてお開きとなるのが恒例である（1,000円では安い!!）

大学4年生の時、社交ダンスが流行していた。医学部がダンスをやろうと企図され、その伴奏にバイオリン・フルート・チェロと3人がやった……。

或曲にひと休のあと、バイオリンが単独で高音からグリフセンドで2小節にわたって弾く所がある。ここはバイオリンの腕の見せ所で、そこだけは一生懸命習って上手に弾いたら、拍手がおきて皆ほめてくれた。いい気分だった。

同じ頃、金沢には珍しく河原崎長十郎の前進座がやって来た。有名な「屈辱」と言う芝居である。

もともと日本の芝居には、音楽などなく笛・太鼓・シャミセンで時々奏でるくらいである。前進座は洋風を取り入れて音楽をやるが、その楽士達をつれてくる金はないので、私達の所に依頼が来て、例の三名がやることになった。

午前・午後の2回を2日分やってまあまあ出来であったとか。

お昼の弁当と入場券2枚もらった（お金はくれなかった?!）楽しい一時でした。

4年生の後期になって3年生のKくん兄弟（音楽については詳しく兄がピアノ・フルートを弟がバイオリンとセロを弾く）が企図してシューベルトのロザムンデ序曲の一部（7～8分位）をやろう……と提案した。その指揮を私にやってくれと言う。それは無理だとのことだったが、これは私の卒業のお祝いです。やってください……と細々と説明してくれた。

楽譜を見ながら音楽をきいて、曲の強さ、長さなどを暗記することが精一杯であり、いろいろの符号をつけて分かりやすくした。この3ヶ月は血の出る思いであった。

当日になって、医学生がシューベルトの「何とか?」をやるそうです、とのことで大勢の人が来てくれた。

医学部からは5～6人、大学の本部の音楽部から15名程が助っ人に来てくれ何とか曲がりなりにも揃った。（詳しく書くときりがない）

何とか演奏は無事に終わった。私の最後の指揮棒を大きく振ってパツと止まると全演奏がピタリと止まった。

静かな一時に誰かがお義理の拍手をし「ブラボー」と叫んだ、と短いが終わったんだと気づいて急に大きな拍手があつて……私は皆を立たせ聴衆の方に深々とお礼の挨拶をした。

無事終わった。

何とか様になったようだ、演奏者の皆さんのほっとした表情に何ともいえぬ喜びが、ほほえみがあった。よくやったぞと!!

この経験が私の音楽に対する感覚を大きく変えることになった。音楽会などによく行った。姉が東京にいて、いい音楽会があると来ないかと知らせてくれて、時々上京して、音楽会を聴いて来たが、音楽よりも私にとっては指揮者の行動が面白く、つい軀や手がそれを真似て動いてしまう。あの指揮棒からいろんな音がとび出して、私の体を突き刺したり、覆ったりして、また私の方からも音楽の世界に軀ごと入りこんでいるようになり、この一時は現実を離れたものである……。

その後、自動車の中にCDに入れて音楽を聴けるようになり10枚程度入れ200曲（バイオリン曲が多い）くらいを楽しむことができる。駐車場で手を振りながら独り楽しんでいるこの頃である。

先日ふと、モーツァルトの40番を聴いていると涙が出て来た。何年（10年）くらい前、病院の食堂で美しい音楽が聞こえて来て横にいた小木先生に「モーツァルトですね。」「そうです40番です……」と言われ（それは知らなかった）そのあとモーツァルトについて色々とお話をいただいた。ふと、そんなことを思い出させてくれた『音楽』である。



「古い話である。」と森鷗外の「**雁**」は始まります。

その30年近く後「うとうとして……」と始まる「古い話」が夏目漱石(1867～1916)の「**三四郎**」です。



著者近影

花びらに 風薫りては 散らんとす (夏目漱石)

## 【24】 弥生町

小説「三四郎」の主人公は、帝国大学文科大学(現・東大文学部)に入学するため熊本から上京した小川三四郎です。入学前の夏休み(当時は秋入学)の或る日、三四郎は「野々宮宗八を尋ねることにし……」「高等学校(現在の東大農学部の場合ですが、学校としては現在駒場にある東大教養学部が相当します。)の横を通過して弥生町の門(現・弥生門)からはいった。」のが帝国大学です。帝大の**正門**は(医学部の)**鉄門**でしたが、三四郎の住まいは駒込追分町(現・文京区向丘1丁目)だったので、「弥生町の門からはいった。」のでした。

理科大学(現・東大理学部)で野々宮に会った後「三四郎は池のそばへ来てしゃがんだ。」のですが、この「池」(元前田屋敷の庭園の池)は、後に「**三四郎池**」と呼ばれることになる東大の名所です。

1629年(寛永6年)4月、明智光秀の重臣・**斎藤利三の孫・徳川家光**は、将軍として加賀藩上屋敷への御成(訪問)を挙行します。家光の御成には、弟の忠長、立花宗茂(=柳川藩祖)と並んで藤堂高虎(=藤堂藩祖)が御供しました。東大医学部の前身・東京医学校が1876年(明治9年)にこの加賀藩上屋敷(跡)に移ってくる前に在ったのは、藤堂藩上屋敷の跡地(ただし、高虎時代の上屋敷は江戸城大手門前)でした。

当時の加賀藩主・前田利常(利家の四男)は、御成に供するための御殿と(造成時には「名前はまだない」)庭園を造りましたが、その庭園の池「心字池」こそが後の「三四郎池」です。

三四郎はその後「ベルツの銅像の前」を南へ歩き、南新門(現・龍岡門)から学外に出ました。「はいった」のは正門(=鉄門)からではなかったし、正門から出ることもありませんでした。

[9] や [19] にも登場したベルツですが、近年(医学の他に)人類学でもその功績が評価されています。ベルツは1911年(明治44年)に「東アジアの人種 特に日本を中心に」という(ドイツ語)論文で「**アイヌ人と琉球(沖縄)人が同じ系統の人種である。**」と書きましたが、何とそれが21世紀の今日(それも**ここ10年余**で)、ヒトゲノム研究によって裏付けられています。国立遺伝学研究所の



東大 三四郎池  
出典：ウィキペディア 心字池





東大 ベルツ像  
出典：改訂版 江戸東京医史学散歩

齋藤成也<sup>なるや</sup>特任教授によれば、「ベルツの説が101年後に最終的に証明された。」ことになるのです。

ベルツを詠んだ秋櫻子の句碑が（東大の他にも）愛知県豊川市の西明寺にあります。そもそもは、ベルツに学んだ三浦勤之助と入沢達吉が、ベルツの妻・花の父方先祖の菩提寺である西明寺にベルツの供養塔を建てたのが始まりです。三浦勤之助は、[13]で述べたように、三宅秀の長女・教の夫です。

菊にほふ國に 大醫の名をとゞむ（水原秋櫻子）

この句碑は1969年に建てられました。妻・花の所縁の地なのに何故か（東大の）「……花の雨」の句は選ばれませんでした。

さて、三四郎たちは「ベルツの銅像の前から枳殻寺の横を電車の通りへ出た。」のですが、この「枳殻寺」は、[9]の齋藤利三の娘・春日局の麟祥院のことです。

行春の 召させ参らす 草鞋かな（内藤鳴雪）

「吾輩は猫である」の迷亭の叔父「牧山」のモデルと云われる内藤鳴雪（1847～1926）は、旧主松山藩の寄宿舎の舎監を務めていた時に入舎して来た正岡子規（本名・常規；1867～1902）の俳句の弟子でした。正岡子規は「吾輩は猫である」の作者・夏目漱石（本名・金之助）の東京大学予備門（現・東大教養学部）の同級生です。

夏目漱石は、熊本の第五高等学校（現・熊本大

学。前回述べたように医学部だけは現・長崎大学）の同僚（漱石は英語教授、狩野は倫理学教授）で5年前に五高から転任していた狩野亨吉が校長だった第一高等学校（現・東大教養学部）の英語講師に就くため、1903年に熊本から東京に転居してすぐ、同じ町内（駒込千駄木町）の（友人でもあり、「吾輩は猫である」の「甘木先生」のモデルとされる）尼子四郎（安芸国戸河内村生まれ、広島医学校卒業。医学中央雑誌の創刊者；1865～1930）を家庭医とします。

ご存知の方もいらっしゃるでしょうが、夏目漱石も精神疾患を患いました。漱石の精神症状に悩まされた鏡子夫人が尼子四郎に相談すると、「精神病の一種だろう」と同郷の友人・呉秀三（と云っても呉秀三は父が江戸詰め<sup>くれしゅうぞう</sup>の広島藩医だったため江戸・青山生まれの江戸っ子です。）を紹介しました。尼子四郎が精神病を疑ったのは、決していい加減ではありません。尼子四郎は、院長の呉秀三に誘われて精神科医として巢鴨病院に奉職していたのです。[9]で述べたように、呉秀三は、「お玉ヶ池種痘所」の発起人（＝「東大医学部のファウンダー」）の一人である呉黄石の三男で、同じく発起人の箕作阮甫の孫です。巢鴨病院で漱石を診察した呉秀三は、「追跡狂」と診断しました。現在の病名で云えば「妄想性障害」でしょうか？

ご存知のように夏目漱石は、今日「文豪」と呼ばれて多くの方の尊敬を集めていますし、今なお大変多くの読者を持っている偉大な作家です。映画やTVドラマにもなった小説「神様のカルテ」の作者で信州大学卒業の内科医でもある夏川草介はこう語っています。

「（漱石の）作品には生きていく指針があふれている。学校にいない先生がここにいる。」

本誌の発行元・吉祥寺病院は精神科病院ですので、読者の皆様の中には精神障害の当事者やご家族、関係者の方も多くいらっしゃると思います。そういう読者の皆様にとっても、夏目漱石が「生きていく指針があふれている」作品を書いた「文豪」として（「障害者」という前提抜きで）高く評価されていることは、大きな勇気を齎してくれるのではないのでしょうか？ 文豪・漱石は、今天空に星（小惑星4039）となって輝いています。漱石の脳は東大医学部標本室に保存されています。

ところで、ご本人や作者が否定しているのに、昔から「吾輩は猫である」の「迷亭」のモデルではな

いかと云われているのが、漱石の友人で帝大文学部教授の大塚保治です。大塚保治の妻は、樋口一葉の跡を継ぐ作家と目され漱石の弟子でもあった大塚楠緒子です。楠緒子は、美貌の才媛として名を馳せ、哀しくも「美人薄命」を地でいった人です。1910年（明治43年）、流行性感冒で逝去。享年35。

書の中にはさみし蕈 にほひ失せぬ  
情けかれにしこひ人に似て（大塚楠緒子）

そう言えば、日本初のミスコンテスト「全国美人写真審査」が開催されたのは、大塚楠緒子が存命中の1907年（明治40年）のことです。コンテストを主催したのは、1882年（明治15年）に福沢諭吉が創刊した「時事新報」ですが、その審査員は次の13名でした。

洋画家の岡田三郎助。日本画家の島崎柳塙。写真学者の大塚千里。女形役者の河合武雄（新派）、中村芝翫（5代目。歌舞伎）。茶道家（元実業家。元「時事新報」社員）の高橋義雄。彫刻家の高村光雲、新海竹太郎。人類学者の坪井正五郎、前田不二三。写真技師の前川謙三。医師の三宅秀、三島通良。

ここで注目されるのは、坪井正五郎と三宅秀（の二人とも）が加わっていることです。[22]でお話したように、坪井正五郎はお玉ヶ池種痘所発起人・坪井信良の長男ですが、母が織田信長末裔の坪井信道の長女・牧で、三宅秀はお玉ヶ池種痘所発起人で明智光秀末裔の三宅良斎の長男ですから、お玉ヶ池種痘所創立から約半世紀……織田信長末裔（の坪井家）と明智光秀末裔（の三宅家）とが再び見え、見ただけでなく力を合わせて一つの仕事に取り組んだことになります。

坪井正五郎は、その20年ほど前に提唱した「（日本の）石器時代人＝コロボックル」説が反論の嵐の真っ只中という苦境にありました。坪井正五郎の存命中に完全に否定されるには至らなかったコロボックル説も、彼の死と共に自然消滅（？）しました。彼は今、「弥生時代」の名の元になった**弥生土器**の（学生時代に他の2人の学生と共に）発見者として名を残しています。皮肉なことに（？）その発見者の一人である白井光太郎は、コロボックル説の有力な反対者でした。

それはともかく、日本の歴史を語る上でとても重要なコンセプトである「弥生時代」「弥生人」の名称の元になった「弥生土器」の発見者（の一人）は

**信長末裔**の坪井正五郎でした。発見場所である「向ヶ岡貝塚」は現・弥生2丁目遺跡と思われます（異説あり）。

弥生2丁目遺跡は、東大浅野キャンパス**構内**にあります。「浅野キャンパス」の名前は、「最後の大名（広島藩主）」として知られる浅野長勲侯爵邸の跡地であることに由来します。加賀藩前田屋敷跡の本郷キャンパスも水戸藩徳川屋敷跡の弥生キャンパスも屋敷の主の名を使われなかったのに比べ、何故か浅野キャンパスだけが屋敷の主の名を冠しています。地名を使いたくても「弥生」の名を既に使われていたからでしょうか？

浅野キャンパスの北側の道は弥生坂です。浅野キャンパスの西の隅（弥生坂側）に地元の町会が立てた「弥生式土器発掘ゆかりの地」碑がありますので、その碑文を読んでみましょう。ここに書かれた「壮大で匂やかなロマン」の基を発見したのが織田信長の末裔であることにも「ロマン」を感じませんか？

「弥生式土器は、ここ向ヶ岡弥生町（現在弥生2丁目）内の数ヶ所から初めて出土発見され、町名を冠して『弥生式』と名づけられました。

遠いむかし、人々はこのあたりに住みつき、日本文化の曙を告げたのです。弥生式土器向ヶ岡遺跡の発見によって弥生時代という重要な文化期の存在が知られました。私たちはこうした歴史の壮大で匂やかなロマンを憶いふるさとわが町の誇りを語りつぎ出土と命名の史実を末永く顕彰するため、この記念碑を建てました。」



弥生式土器発掘ゆかりの地碑  
出典：ウィキペディア 弥生町遺跡



# 新入職員のご紹介



## 所属 氏名

- ① 出身地
- ② 吉祥寺病院の第一印象
- ③ 私のモットー
- ④ ハマっていること

### A2 M.H

- ① 岩手県
- ② 緑がいっぱい
- ③ 情けは人の為ならず
- ④ 節約→貯金→完凸

### A3 T.C

- ① 鹿児島県
- ② 明るく、温かい雰囲気
- ③ 笑顔
- ④ ドラマ視聴

### A4 F.S

- ① 東京都
- ② 明るい雰囲気の良い病院
- ③ 諦めない力
- ④ お笑い鑑賞

### A4 K.S

- ① 東京都
- ② 歴史を尊重し、スタッフが互いの職種の業務や価値観を大切にしている
- ③ 今あるものに感謝
- ④ 柴犬を吸う

### B1 K.T

- ① 大阪府
- ② 多職種が連携され、患者様のさまざまな側面を見て治療退院までサポートされているよう感じ、自身もその一助となれるよう邁進したいと思いました。
- ③ 何事もぼちぼち
- ④ モノづくり

### B2 M.Y

- ① 三鷹市
- ② 職員の方々がお互いに協力しながらお仕事をされており、とても雰囲気が良い病院だと感じました。
- ③ 「明日は明日の風が吹く」の心構えで頑張っていきたいです。
- ④ カラオケ。大声を上げられるので良いストレス解消になります。

### B2 M.A

- ① 東京都
- ② スタッフさんが明るく雰囲気のいい病院だと思いました。
- ③ チームワークを大切に、他職種と連携しながら患者さんと関わっていききたいです。
- ④ ボディーボード

### B3 K.M

- ① 茨城県
- ② 花いっぱいのお庭が素敵な場所だなと思いました。特に桜はとても見応えがありました。
- ③ 自分を信じない。間違いなく仕事を遂行するために、いつも過信、慢心のないよう心がけています。
- ④ はちみつ紅茶。砂糖を入れなくても甘く、ほっと一息つきたいときによく飲みます。

### 栄養科 O.M

- ① 埼玉県
  - ② 院内は落ち着いた雰囲気で、すれ違うスタッフの方達の挨拶が温かく感じました。
  - ③ 早寝早起き
  - ④ 羊毛フェルトで人形作り
- 一日でも早く業務を覚えて、頼もしい存在になれるよう、頑張ります。よろしくお願いします。

## 当院のおすすめメニュー

### 厚揚げとナスのマーボ炒め

ご家庭向けにアレンジしてみました。スーパーで材料が揃えられます。

#### 材料 (1人前)

- ① 厚揚げ …………… 100g
- ② 冷凍 揚げナス ……お好みで
- ③ 冷凍 ブロッコリー お好みで
- ④ 豚ひき肉 …………… 40g
- ⑤ 水 …………… 大さじ 2 杯
- ⑥ 鶏ガラだし 小さじ 1/2 杯弱
- ⑦ 砂糖…………… 小さじ 1 杯弱
- ⑧ 料理酒…………… 小さじ 1 杯弱
- ⑨ 醤油…………… 小さじ 1 杯
- ⑩ ゴマ油…………… 小さじ 1/2 弱
- ⑪ 赤味噌…………… 小さじ 2 杯
- ⑫ クックドゥ麻婆豆腐の素 …………… 大さじ 1 杯弱
- ⑬ 水溶き片栗粉 …………… 片栗粉小さじ 1 杯 + 大さじ 2 杯くらいの水
- ⑭ 味の素…………… 1 つまみ



#### 作り方

- [1] あらかじめ①・②・③は加熱しておく。(炒めても、レンジでもお好みで)
- [2] ⑩ゴマ油で④ひき肉を炒め、火が通ったら⑦砂糖、⑧料理酒、⑨醤油、⑪赤味噌で味をつけ加熱する。
- [3] [2]に⑤水を入れ⑥鶏ガラだし⑭味の素を入れ⑫を入れ⑬を入れ一煮立ちさせトロミをつける。
- [4] [3]に[1]を入れて出来上がり。



# 外来担当表

## ● 初診

	月	火	水	木	金	土
第1週	畑	岡田	森	田澤	狩野	市川
第2週	中村	山室	西岡	宮崎	種田	秋山
第3週	畑	岡田	森	田澤	狩野	市川
第4週	中村	山室	西岡	宮崎	種田	秋山
第5週	畑	岡田	森	田澤	狩野	市川

## ● 再診

	月	火	水	木	金	土
午前	土井 市川 森 田澤 種田	院長 土井 市川 西岡 山室 秋山	原藤 森 西岡 山室 岡田 南	市川 田澤 山室 畑 宮崎 中村	市川 森 西岡 岡田 畑 種田	森 西岡 山室 狩野 亀山
午後	南澤井	相馬	森(栄) 澤井	小島 山下	森(栄) 塚本 西本	

### 受付時間

- 月~金 午前 9時~11時 (初診・再診)  
午後 1時~ 3時 (初診)  
※午後の再診は事前予約の場合受け付けています
- 土 午前 9時~11時  
午後 入院は受け入れています

当院は「敷地内全面禁煙」です。



調布市深大寺北町4-17-1

## 編集後記

梅雨が明け、夏本番に突入しました。日差しも強くなり、夏バテぎみになる時期ですね。毎日を健やかに過ごすためには、暑さ対策が必須です。汗をかいたらすぐに拭くこと、喉が渇いていなくても水分補給をすること、エアコンは適度に使うことなど、いまのうちから暑さ対策を始めてみてはいかがでしょうか。暑さだけではなく、湿度も高くなりやすいので、熱中症リスクが高くなります。こまめな水分補給を心がけ、暑い夏を元気に過ごしましょう！

ペンネーム D

春の余韻もなく梅雨交じりの暑い夏になりました。エアコンの効いている快適な室内から外へ一歩踏み出した時の激しい熱気が感じられ、気分が滅入る時があります。冷たい飲み物やアイスを飲んだり食べたりしがちですが、夏バテの原因になるので注意しましょう。暑い夏を乗り切るには、熱い飲み物や食べ物に目を向けるのもいいかもしれません。体調管理をしっかりして楽しい夏にしましょう。

ペンネーム I